

勝手連が辺野古区民の声を聞く

沖縄県と政府の窓口となる 勝手連・辺野古支部 の設置に向けて!!



第2回座談会 写真左から勝手連会長・光永勇、全国JC全会頭・安里繁信、衆議院議員・宮崎政久、自民党元衆議院議員・安次富修、勝手連副会長・上野玄津



東京勝手連総本部にて光永勇会長から勝手連辺野古支部長の任命書を手渡された・玉利朝輝氏 (2015年11月26日)

■市民座談会を開く

米軍の辺野古基地移設の問題は、連日マスコミ等で大きく報じられているが、肝心の辺野古区民の声はまったく報じられていない。

国も自治体も誰も辺野古区民との直接対話を避けているからである。この状況を何とかしなければならぬ。辺野古区民の生の声を聞くべきである。そして、全国に報じなければならぬ。

全国勝手連連合会総本部の光永会長は、そう考えて辺野古区民との座談会を企画・開催した。

第1回平成27年8月3日、第2回同月17日回名護市辺野古の公民館「交流プラザ」の会議室で座談会は開催された。

光永氏の呼びかけで集まった有志の方々は、下記の5名。

【勝手連・第1回座談会出席者】

玉利正輝氏

(ワシントン食品代表)

飯田昭弘氏

(前・辺野古商工社交業組合会長)

許田正義氏

(辺野古商工社交業組合会長)

宮城安秀氏

(名護市議会議員)

保栄茂広海氏

(沖縄北部振興策研究会事務局長)

光永勇氏

(全国勝手連連合会総本部・会長)



写真左から全国JC全会頭・安里繁信氏、衆議院議員・宮崎政久氏、自民党元衆議院議員・安次富修氏、全国勝手連連合会総本部会長・光永勇、副会長・上野玄津

■地元の声なぜ聞かない!

玉利朝輝氏の司会で始まった座談会は予定時間をはるかにオーバーするほど熱を帯び、様々な意見・提案が交わされた。

その主な内容をピックアップして紹介しよう。

「われわれは20年前から協力で

きることは協力してきた。しかし、防衛省は地元は何の答えも返してこない。新しい法律が必要なら作ってでもわれわれの協力体制に添えて欲しい」

「辺野古反対で4億円ものお金を集めて反対運動をしている人でも、地元には来ないし、地元との接点もない」

「辺野古がおかれている位置は、みんな分かっている。国策・国防というなら早く作るべきだ。金ありきで進んできたからおかしくなった。沖縄の将来像が大事だ」

「キャンプシユワブの中に作るのなら反対する人はいないと思う。騒音などを考えると、なるべくなら来て欲しくないが、国防というなら条件を付けさせてもらう。主人公は辺野古区民のはずだが、何らの恩恵も受けていない」

「沖縄の復帰運動では、私も北部まで歩いて参加した。自分たちで選び取った道だ。いまの沖縄周辺の状況を考え、国防・国益論から言ったらアメリカの抑止力が必要だ」

全国勝手連・光永会長は、座談会に参加された方々のご意見・ご提案を受けて、以下のような提案をした。

「米軍や自衛隊は、自然災害や医療の問題も視野に入れて地域貢献をすべきではないか。そうすれば、地域間格差や離島格差を解消し、平和利用につながる。その役割を期待したいし、地元も、そのような条件をどんどんつけるべきだ」

■新しい解決策をめざして

マスコミが報道する辺野古と、現実の辺野古には大きな格差がある。様々な立場の人たちが、それぞれの思惑で辺野古問題に関与し、問題を複雑化させているが、まず当事者である辺野古区民の声を聞くことが先決であり正道である。その想いを痛感する座談会であった。

光永会長は、今後も座談会を継続することを提案し、出席者全員の賛同を得た。

今後は、メンバーを増やし、ゲストも招待して辺野古区民の要望を具現化すべく応援をしていく。そのため、全国勝手連連合会・総本部は、勝手連の辺野古支部を政府の窓口として、辺野古区民と一緒に、これまでとは違う新しい切り口で基地問題の解決策を模索していく方針である。